



No. 75

昭和53年3月25日発行

〒814

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館

社会人と図書館

書物を介して、一つの世界を共有したあの一瞬を確かめながら、
この第一面を、新卒業生に献げる。 (館長 八木 幹)

〔大学図書館の再認識〕

卒業生 諸君と図書館との結びつきはどうだったろうか。知識吸収の手段が、この情報化社会に無限に存在するとの錯覚が常識化するにつれて、図書館への足は遠のく。これは事実である。しかし、大学の研究・教育の基本的姿勢に貫かれた図書館との直接、間接の結びつきと、それによって培われたものが、諸君の四年後の現在であるのもまた事実である。大学キャンパス内に屹立する図書館の敷居は高いとの誤った図書館像を打破し、不変の目的意識のもとに図書館は常に息づく。大学図書館が、大学の象徴、心臓といわれる言葉の重みを、これから社会人になる諸君は、今一度かみしめようではないか。 (司書長 刀根)

〔卒業後の図書館利用〕

大学在学中に本学図書館を利用する学生は何割か？試験期のみといった人も少くない。在学生の図書館利用率は思ったよりも低いようです。さて、そうして卒業したあと、彼等はきっと、シマッタと思うに違いないのです。そこで本館では卒業生などのために、特別利用者規則を設け、積極的に卒業後の勉学の扉を開けています。それも昨年10月からは午後9時までの夜間開館にふみきって便宜をはかっています。(手続きは告知板参照)卒業したからといって本学図書館と縁が切れることは決してありません。いや、在学中入館の経験のない人も卒業後は足繁く本学図書館を利用されるよう館員一同待っております。 (閲覧係 倉光)

〔生涯教育の場としての図書館〕

たてこんだ映画館でまずは座席を~~と~~と人をかき分けて確保し、自分のだけでなく、友人の分まで大さわぎをして、やっと座ったと思ううちに居眠りを始める人がいます。よい就職口をつかんで座席に座った途端に眠りこんでしまう人、映画館で眠っているのはさして傍迷惑ではないが、人生の座席を先取りして、ただ居眠りしていられては周りの者も、後から来る者も困ります。現代は進歩の速い、変化の激しい時代であり、社会は複雑多岐であると云われています。こういう時代には、人は一生学ばねばならないし、学ぶことが自分の人生をより豊かなものにしてくれるに違いありません。

そんなあなたがたに図書館は役立つ事があると思います。生涯教育の一つの場として、学生時代とは又異なった本との出会が待っているかもしれません。(整理係 品川)

〔趣味と読書〕

近頃の学生はアルバイトをしたことがないという人の方が珍しい位で、学生時代に社会慣れしている様ですが、学窓を離れてみると今までと違う生活環境に居ることに気付かれることでしょう。夢中になって仕事を覚え、気持ちに余裕が出てふと、周りをみると、すぐに会えた年令も考え方も同じで、対等に話合える仲間がいない。もう「学生時代は夢なのか」です。夕方からの本屋さんにはホワイトカラー族でどった返します。実用向きの専門書、ハウ・ツーもの、それから一番利用の多い趣味の本。私は幸い職場が図書館ですから、昼休みや、退勤後、ぶらりと興味のある本を手にとったり、調べ物に図書館を利用します。いつまでも学生気分ているのはその為でしょうか。 (資料係 府川)

〔図書館と本〕

図書の受入れ業務を担当していますと、自分の好みに関係なく、先生方の研究用、学生用図書が、年度始めに出された実行予算に従って、入荷してきます。各分野の図書が効果的に入るように、選定図書リストの重複調査を入念に行なわなければなりません。この時ももう少し自分にゆとりがあれば重複ミスが少なくなるだろうと、いつも思うのです。「ゆとり」所謂、経験というものは、やはり仕事の上では本当に大切だと思います。一つ一つの積み重ねによって、自分の未知の世界を開拓してゆく。そして、与えられた仕事に対しても、面白味が出てくるように思います。 (受入係 篠崎)

〔図書館とコンピューター〕

現在は情報化社会とよくいわれています。私は今、図書館機械化のメンバーの一員として、コンピューターを扱っています。図書館はその情報化社会の情報源として、コンピューターを利用することにより、大量の情報を早く、また正確に得ることができるようになっています。さらにコンピューターやマスメディアの発達により、大量の情報が氾濫し、日々複雑になり、変化のテンポが加速する社会において、必要な情報を伝えるためには、情報に振りまわされないように、情報を確実に理解し、いかに判断していくか、情報源の中で仕事をしている私にとって、情報化社会における情報処理能力を備えたいと思っています。 (資料係 香川)

「社会人になってからの読書」

福岡市消防局 消防司令長・指導課長 結 城 助 民

たしか、昭和32年頃と思うが、坂本先生の英文学講読の時間に「卒業式」は英語で何というかと聞かれたことがある。勿論、だれも知らないようであった。先生は、「Commencement」という、その意味は「始め」であると説明してくれた。

それから早いもので、33年に本校の文学部（夜間部）を卒業し、今の職場にはいって20年になり、気がついてみると永年勤続の表彰を受ける年になってしまった。他のことは、おおかた忘れたが、先生のこの言葉は今までも決して忘れたことがない。その間、法律の執行官として、一冊でも多くの法律書にしたしむことを心がけてきた。職場では「わからない」では通用しない。すなわち、人生の第2の出発であり、まさしく「コメント」であった。そして、趣味や時間つぶしの読書などは、おおかた縁遠い生活でもあった。それで、ここでは、趣味の読書術は論外とした。ところで、就職しても一般教育科目は別として、専門科目のすべてが、すぐに役立つとは限らない。職によっては、全く関係のない人もいる。私はその典型的な一人である。そんな経歴をもつものとして、少々堅苦しい話であるが、役所勤め人の読書術の一端を披瀝したいと思う。役所にはいって、法律はつきものであり、特に行政法は不可欠であるが、何回読んでも理解できない。「準法律行為の行政行為」など、舌をかみそうな言葉、用語が次々に現われる。そのたびに、原点にかえり法学概論や民法総論に逆もどりして、わかりやすい基本書を読むようにした。

役所では、消火活動から、人事、企画、消防学校教官、今では典型的な権力行政である予防行政を担当している。人事をやれば給与条例や労働基準法、予防は消防法から建築基準法、電気、化学の知識まで要求される。特に43年頃の教官当時は法学概論から行政法まで講義を担当したことがある。法学は十分基礎をやらないと、とかく方角（法学）違いのところへ走ってしまう。学生は消防学校の生徒で、大学の法学部出身から実業高校まで一緒に、いささか骨が折れたものである。

学生時代が議論の場であるのに反して、職場はまぎれもなく、意思決定の舞台である。他の意見を批判することは容易であるが、意思を決定し、組織として実行することは、なかなか骨が折れる

ものである。ああでもない、こうでもないと悩むこともしばしば、自己の知識をふりしぼって「決定」することはむずかしい。そのときは、きまって本箱の中の古本をあさって読みなおすことにしている。最近のように行政需要が複雑になると、具体的には、色々なケースの事案が発生するものである。勿論、法律事案であるが、事案が法令に該当するか否か不明な場合が多い。その根拠法令をさがすのが法の解釈という、やっかいな仕事である。法文に忠実に、そして具体的に妥当性のある結論を出そうと努力する。該当すれば法的義務が発生することになる。法令解釈の過程では、組織的に議論が白熱する。その中で職員の実力が見いだされる。わからないからといって、いちいち人に聞くと月給どろぼうになりかねない。又、上司にばかり相談すれば、不信をかうばかりである。しかし、現実には、今の若い人は自分で苦心して考える習慣がたらないような感じがする。

学校では、先生がちゃんと教えてくれるが、職場では、色々な本を調べて何らかの自己の見解を披瀝しなければならない。それで、そのときになってインスタントに本を読んででもだめで、日頃から多くの本を読んで実力を貯えていなくてはならない。そして知識は一日にしてできるものではないし、また、読書は、知識を自己の脳内に貯蔵することが目的でもない。あくまで読書は、手段であって、その知識を活用して仕事の「実行」に使用せねばならないと思う。読書によって知識を貯えるのみでは、宝の持ちぐされである。勤人の鉄則は、知識の量ではなく、その知識を仕事のために、どのくらい使用できたかである。消防は階級制度であり、昇任試験がある。試験科目も法律から理科系まで範囲が広い。そのたびに多くの読書が要求されたが、今では一つの試験として、よい思い出になる。趣味なら別であるが、仕事のためなら何んとなく読書しても身につかない。試験のための読書は苦しいが、よく覚えるものである。それで、できれば試験を受ける機会を持つことである。40才の手習いでH大学の通信教育部の法学部に籍をおいている。最近、卒業論文の作成のために、本校の図書館にだいぶお世話になったが、今月が卒業式で、（いや、始まり）「法学士」の資格がいただけることになっている。受講の動機といえば何となく、一つの句切をつけたい、そのことだけで、別に大意はない。ただ、仕事に役立てばと念願している。（昭和33年文学部卒業）

参考図書紹介 その⑦

雑誌の調査

参 考 係

雑誌についての知りたいこと、主題毎にどんな雑誌がでているのか？、編集、発行所はどこか？、創刊年、変遷は？、出版頻度、大きさは？、入手方法、価格は？等を知りたいときに使用するツールを本館所蔵分の中から基本的なものを紹介します。

(1) 国内の雑誌の調査

1. 日本雑誌総覧 出版ニュース社 1975

雑誌を「一般誌」「学術誌」「官公庁誌」「団体、協会誌」「同人誌」「PR誌・社内報」の6部門に分け、各々の雑誌の誌名、刊行頻度、定価、創刊年、発行所等が載っている。どの部門に入るのかわからないときは、巻末に雑誌名索引がついているので、誌名から引くと便利です。また発行所名簿も載っています。3年毎に出版。巻頭に「雑誌利用のための参考文献・解説」が載っており雑誌論文の検索方法等が記されてあって参考になります。

2. 出版年鑑 出版ニュース社 第3編 雑誌目録 1977

雑誌だけではなく、国内の出版物のいろんな事項を調べるときに使う最も基本的なツール。その第3編に雑誌目録があり刊行頻度、大きさ、定価（各号）出版社、創刊年が載っている。

学会、協会、団体、大学刊行の紀要等の学術誌は後半に別に載せている。また官庁刊行雑誌も各省庁毎に別記載してある。1の内容をやや簡略化し、暦年毎に発行するもの。総覧の発行されない中間年には最新の情報を提供する。

3. 同人誌年鑑 五月書房 1972

その年の同人誌掲載作品目録とともに、県別に同人誌についての誌名、刊行頻度、沿革、代表者、同人名、同人費などが載っている。

4. 国立国会図書館；和雑誌目録 1975

所蔵目録ではあるが、国立国会図書館のものなので、国内刊行の雑誌については殆ど網羅しており、出版社、誌名の変遷等書誌の事項を調べるのに利用できます。

(2) 外国雑誌の調査

1. Ulrich's International Periodical Directory. R. R. Bowker 16th ed. 1975-76

外国雑誌の書誌の事項等を調べる最も基本的なツール。世界120カ国の現在刊行中の雑誌について、創刊年、誌名、本文の国語名、刊行頻度、定価、出版社、前の誌名等が載っている。

Irregular Serials & Annuals. 1の姉妹編で、不定期刊、年刊のものが載っている。

2. 外国雑誌便覧 日本読書協会 1967

英語系雑誌を中心に約700種を収録してある。刊行頻度、価格、創刊年などとともに内容説明がついている。

3. The Standard Periodical Directory. Oxbridge 4th ed. 1973

アメリカ、カナダの雑誌約62,000種を収録している。

出版社、編集者、内容説明、その中の論文の紹介される Index 類、創刊年、刊行頻度、価格、発行部数等が載っている。

4. Guide to Current British Journals. Library Assn. 1970

収録誌数約2,900種。

創刊年、出版社、価格、紹介される Index 類が載っている。

5. Union List of Serials in Libraries of United States and Canada. Wilson 3rd ed. 1965

世界各国で刊行された雑誌の書誌の事項及び、米国、カナダの図書館の所蔵が記載されている。

☆ News ・ お知らせ ☆

<図書館委員会>

昭和52年10月6日(木)

昭和52年11月25日(金)

昭和52年12月23日(金)

昭和53年3月17日(金)

<研修・出張>

福岡県・佐賀県大学図書館協議会

第3回 研究会 S.52.11.24

於：筑紫女学園短大

出席者： 倉光 恵

文 献 複 写

従来コピーは学生・教授とも2階事務室において係員の手により行ってきたが、昨年10月より別に2階ロビーにセルフサービスのコピー機を導入設置し、学生および大学院生への利便を提供し、従来よりのコピー機を5階資料係へ移して教授用とし、その資料の瞬発的、且つ広範囲の利用を可能とした。このことにより、ますますその研究的価値を高めることとなった。なお、ノート類のコピーは禁じています。

但し、ゼロックスおよびマイクロフィルムからのコピーは、係員に申し出てください。

文 献 複 写 料 金

学生一般用 コピー	ゼロックス	マイクロフィルム からの引伸
B 4	B 4	B 4 40円
A 4	A 4	A 4 30円
	B 5	B 5 20円
	A 5	

告 知 板

○春休み中の開館予定

2月9日(木)～4月11日(火)も平常通り9時～21時開架閲覧室を開き、学習室は閉室します。

但し、・2月9日(木)～14日(火)は入学試験のため、休館

・3月10日(金)～17日(金)は在庫調査のため、学習室のみ開室します。(返却は受け付けます)

○春休み長期貸出

1月31日(火)～4月22日(土)

(但し、卒業予定者は2月末日まで)

冊数 { 学部学生 5冊以内
別科生 10冊以内

○卒業後の図書館利用の手続き

本学卒業生は、社会に出てからも職務上の研究・調査など、あるいは自己の教養・知識向上のため本学図書館を利用することができます。利用希望者は、特別利用者規則に従ってご利用ください。

特別利用者証発行については次のものを提出しなければなりません。

- ① 特別利用許可願(本館備付) 1通
- ② 卒業証明書 1通
- ③ 証明書用写真(3×4cm) 1葉
- ④ 印鑑
- ⑤ 手続料金(1カ月) 100円

※ 入館、貸出手続きは在学中と変わりませんが、貸出冊数及び期間は年間(休暇中も含め)を通じ3冊、11日以内です。

<あ と が き>

ご卒業おめでとうございます。本号は、長い学生生活からいよいよ社会人になられる皆さんへの餞として編集しました。いつもは第一面を先生方に執筆していただいていたのですが、新しい試みとして図書館職員で執筆し、心機一転をはかりたいという意味で編集してみました。

第二面には、現在社会人として活躍しておられる方のなかで、図書館をよく利用される結城氏に執筆していただきましたが、これから社会人となられる皆さんの一助となれば幸いです。(I. A.)